

スミセイVitalityカップ
JVA第45回全日本バレーボール小学生大会

危機管理マニュアル

参加チーム 携帯用

現時点での情報をもとに作成したマニュアルですが、その時の社会情勢によって記載内容が、変更されることもあります。



目 次

【1】	感染症対策	2
【2】	熱中症対策	
①	熱中症予防運動指針	3
②	予防のポイント	3
③	応急処置	4
④	傷病者発生における対応フロー	5
【3】	火災対策	6
【4】	地震(震度4以上)対策	7
【5】	荒天時対策 (大雨・洪水・暴風雨・台風・落雷等)	8
【6】	その他の危機に対して	9

【1】 感染症対策

No.	項 目		具体策	備 考
1	入館前	健康観察	・各チームで実施する。	
2	入館時	体温測定	・実施しない。	
3		手指消毒	・実施しない。	入館後も同様
4		マスク着用	・義務付けない。	
5		入館人数	・制限しない。	
6	試合中	選手	・発声の制限はしない。	
7		ベンチ	・発声の制限はしない。	
8		応援席	・発声の制限はしない。	
9		館内換気	・定期的に換気をする。	
10	試合前後	選手等の移動	・大会役員の指示に従う。	
11		昼食・飲食	・指定場所での飲食	
12		チームの座席	・大会役員の指示に従う。	
13	感染者の発生		・感染者は大会参加不可。	

【2】 熱中症対策

① 熱中症予防運動指針

暑さ指数(WBGT)の単位は ℃

気 温 (℃)	暑さ指数 (WBGT)	運 動 指 針	
35℃以上	31	運動は原則中止	特別の場合以外は運動は中止。特に小学生は中止。
31～35℃	28～31	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険が高い。激しい運動や持久走などの体温が上昇する運動は避ける。運動する場合は休憩を頻繁にとり水分・塩分補給を行う。暑さに弱い小学生は、運動を軽減または中止。
28～31℃	25～28	警 戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増す。休憩を積極的にとり水分・塩分補給を行う。激しい運動の場合は、休憩の目安は30分おき。
24～28℃	21～25	注 意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事後発生の可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、水分・塩分の補給は適宜必要である。市民マラソンなどでは、この条件下でも熱中症が発生する。

参考資料・・・「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(日本スポーツ協会)

② 予防のポイント

移動している時	応援・観戦している時
● 涼しい服・ゆったりした服を着る ● 帽子をかぶる ● 日陰を選んで歩く ● 水分・塩分をこまめにとる	● 定期的に水分・塩分をとる ● 通気性・吸湿性・速乾性のよい衣服を着る ● 保冷剤・氷・冷たいタオルを携帯する

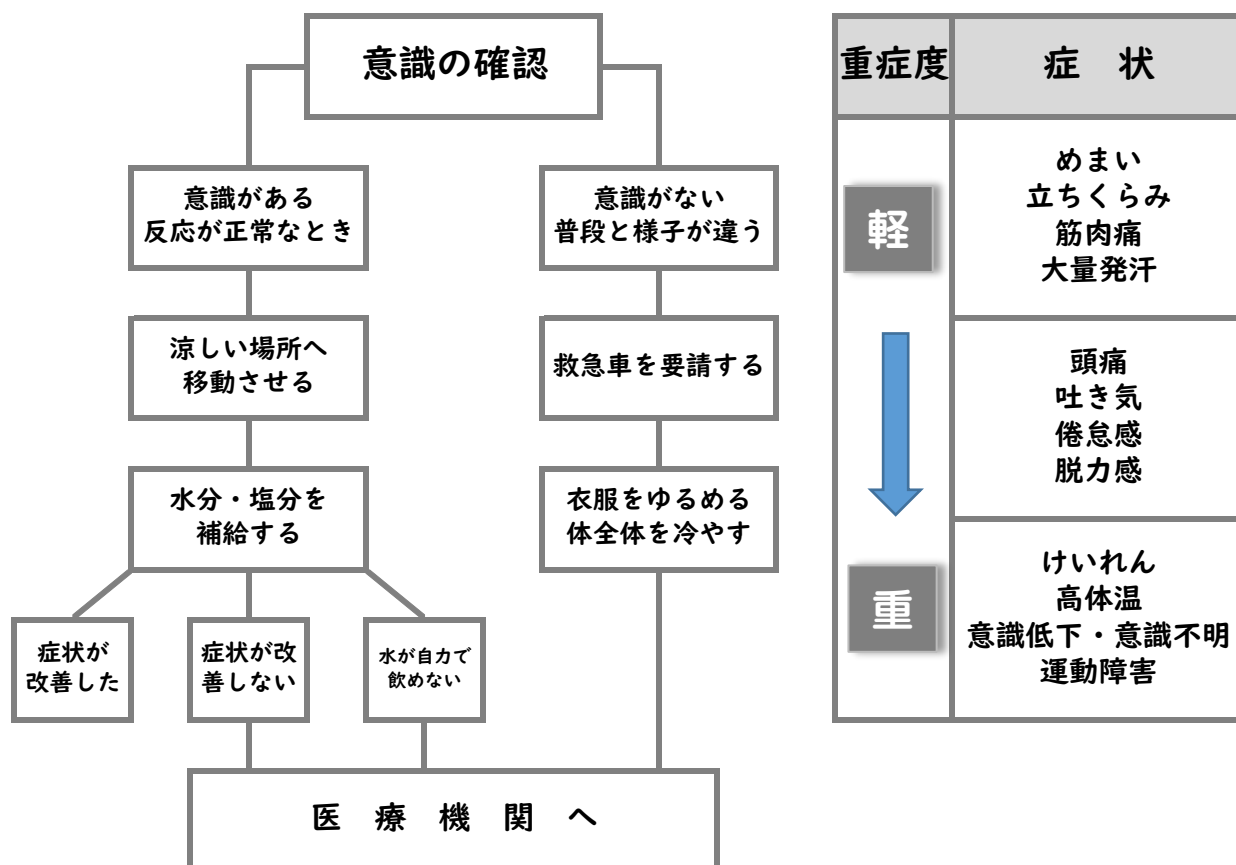
子供達は 自分自身で体調を管理し、具合が悪くなったら無理をしない。

指導者は 子供達の体調を注視し変化を見逃さない。定期的な水分・塩分補給を促す。

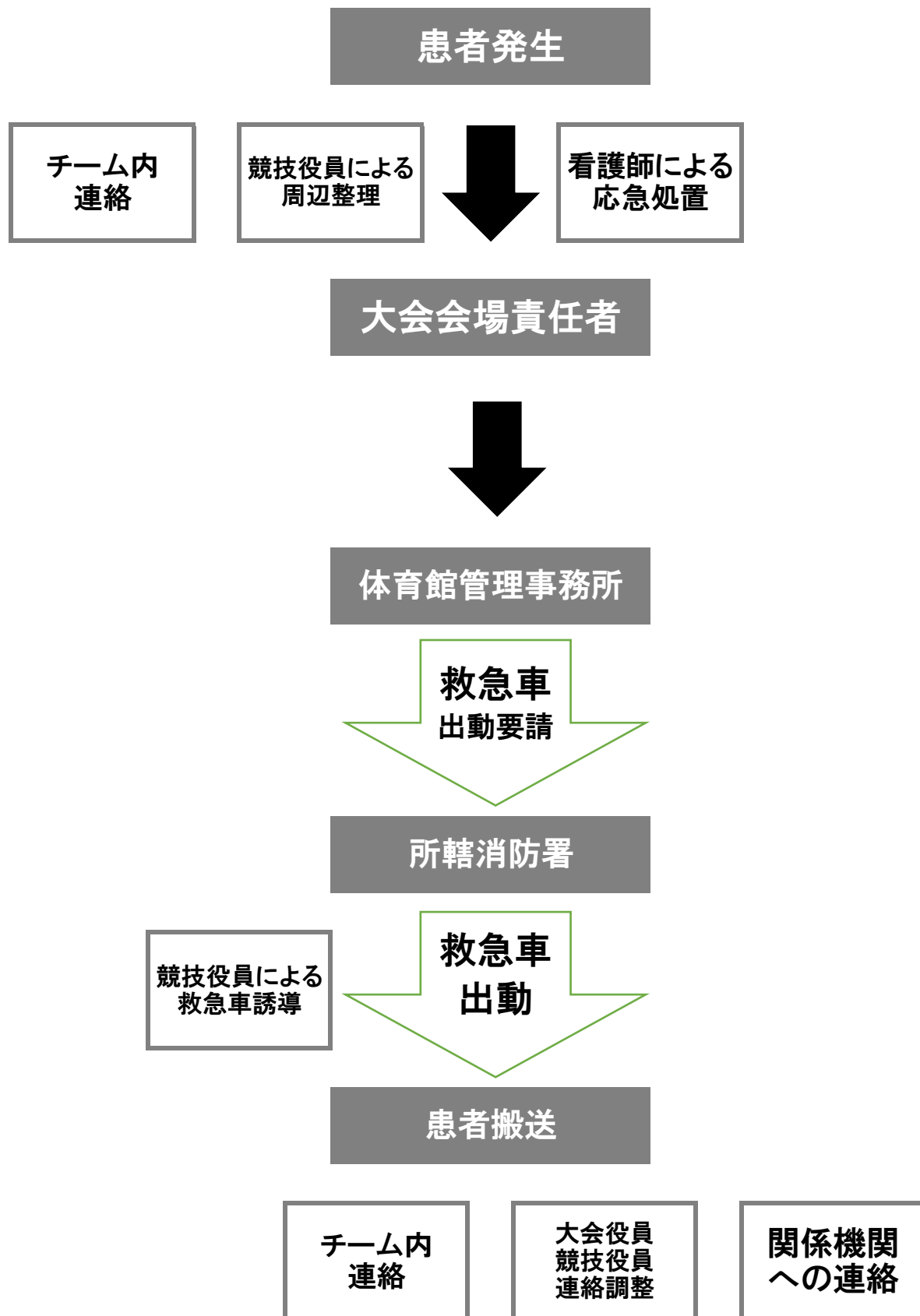
体感温度の個人差

暑さの感じ方は人によって全く異なります。さらに、小学生は体温調整能力がまだ十分に発達していません。暑さを感じなくても、室温や外気温を測定し、エアコンやうちわ等を使用したり、通気や換気を積極的に行ったりして、温度調節するよう心がけましょう。また、子供達がのどが渇いていなくても、こまめに水分・塩分補給させましょう。

③ 応急処置



④ 傷病者発生による対応フロー



【3】 火災対策

火災発生における対応フロー

火災発生

競技役員による
避難誘導
館内放送

競技役員による
負傷者搬送

競技役員・体育館
管理事務所員等
による初期消火

大会会場責任者

競技役員による
避難誘導
館内放送

競技役員による
負傷者搬送

競技役員・体育館
管理事務所員等
による初期消火

体育館管理事務所

競技役員による
避難誘導

消防車
出動要請

大会実行委員会による
今後の対応に係る
協議

所轄消防署

救急車
出動

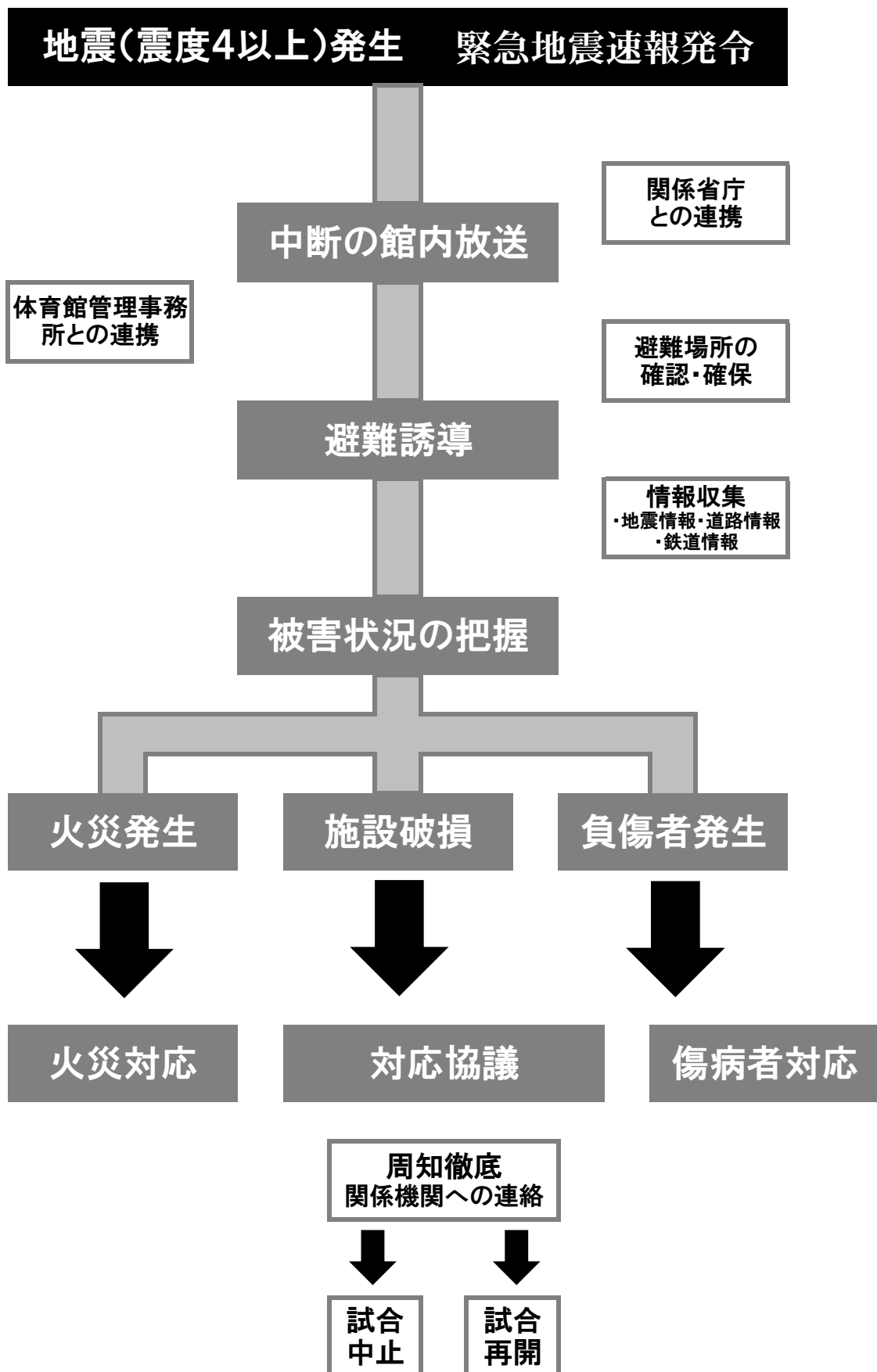
今後の対応の
周知徹底
関係機関への連絡

消火活動

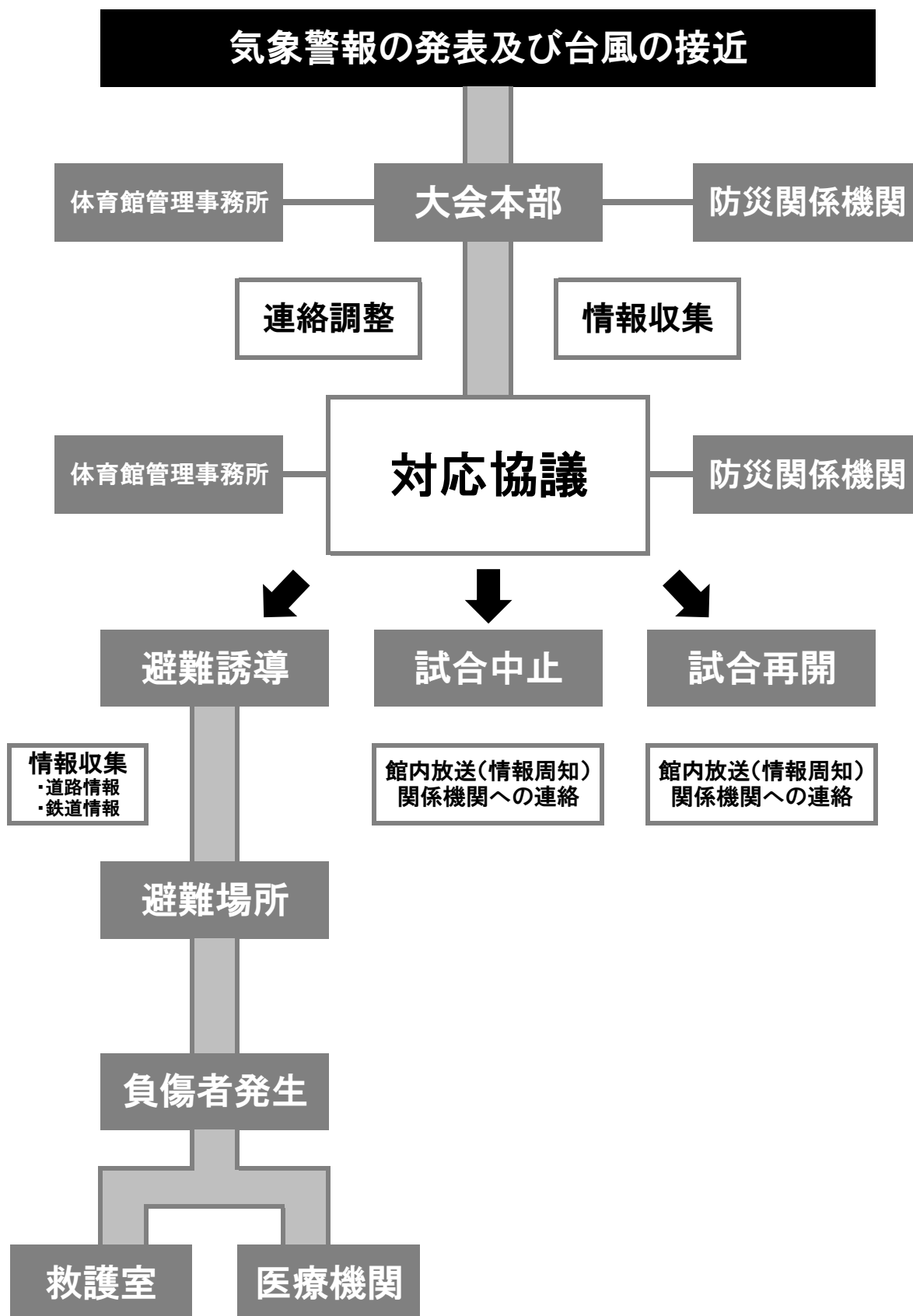
試合
中止

試合
再開

【4】 地震(震度4以上)対策



【5】 荒天時対策（大雨・洪水・暴風雨・台風・落雷等）



【6】 その他の危機に対して

危機の種類	対 策 内 容
不審者侵入 不審物	■ 不審者や不審物を発見したら、近くの役員に速やかに伝える。その際、チームの選手や保護者等に不必要な動揺を与えないように、慎重な行動を促す。 ■ 選手等の大会会場内外における単独行動は避ける。
盗 撮	■ 盗撮の被害が後を絶たない。警察官に身柄を確保されるような悪質なケースもある。チーム関係者以外が、動画・静止画の撮影をしたり、カメラを持って不審な動きをしている人がいたりしたら、近くの大会役員等に報告する。また、盗撮防止のために、観客席等での選手の着替えは控えさせる。
盗 電	■ 大会会場として使用している各体育館の壁などにある電源用コンセントは、使用禁止。撮影機材のバッテリー等は、事前に充電しておく。
SNS上の 無断配信	■ SNS上に動画等をアップしたことによる人権侵害を防止するために軽率な行為は控える。
Jアラート発令	■ 関係省庁や体育館事務室と連携を図り、適切に対応する。
爆破予告	■ 関係省庁や体育館事務室と連携を図り、適切に対応する。
交通機関の 運行麻痺	■ 大会本部と協議し、連携を図りながら適切に対応する。